

宮崎県市町村・地域づくり団体等協働モデル事業

都城六月灯「おかげ祭り」
伝承事業

特定非営利活動法人
おかげ祭り保存会

都城市

事業名：都城六月灯「おかげ祭り」伝承事業

1. 【団体の概要】

「おかげ祭り」は、地域コミュニティの再生手段として創設されて以降、日本の伝統ある祭りの仕組みに学び、祭りという思想文化を現代に活かす方法により、地域連帯の醸成に取り組んでいます。

(おかげ祭り概要)

開始：平成5年

運営主体：おかげ祭り振興会（設立：平成10年）

会員数：74名（令和4年度）

当日参加者：約1000名（令和4年度）

観客数：3万～4万人（令和4年度）

おかげ祭り保存会は、祭りの仕組みを正しく保存継承するための機関として、また「おかげ祭り」が目指す地域の連携づくり、祭り文化の伝承や青少年の健全育成を支援し、「自助、共助」のまちづくりを推進するため、祭り振興会OBや次の祭りのリーダーとなる人材が18名集まり平成30年に特定非営利活動法人として設立したものです。



2. 【事業の目的、ねらい】

現代社会では人と地域、人と人をつなぐ地縁が希薄化し失われていく風潮にあります。今、地域づくりに真剣に取り組まなければならない重要な背景として地縁問題があるのだと思います。

日本の伝統ある祭りは、単なる楽しむためだけの賑わいづくりだけではなく、地域での人間関係や絆を育み、お互いが助け支え合って生活していくための共生の仕組み、あるいは地域や集団の中でそれぞれが守るべきマナーや秩序といったものが全て組み込まれています。

今の社会には、こうした地域社会の連携を図るための再生手段が必要と考えています。

また、都城圏域には昔から「六月灯」という地域文化が受け継がれてきていますが、近年、「六月灯」の本来の意味と想いが薄れつつあります。「祭り」という手段を通して文化の継承とそれを継承する人材の育成を目指しています。



3. 【活動内容】

○ 「おかげ祭り写真集」作製事業

この度、30周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として、これまで「おかげ祭り」がたどってきた歴史や変遷に思いをはせ、祭りの記憶を保存するために撮影されてきた写真を編纂し「創設30周年記念写真集」を発刊することになりました。

編纂に当たっては、資料収集から分類整理、編集割込み作業まで事務局を中心に取り組み、データ編集、印刷製本は業者委託で行いました。編纂作業は予想以上に困難を極めました。

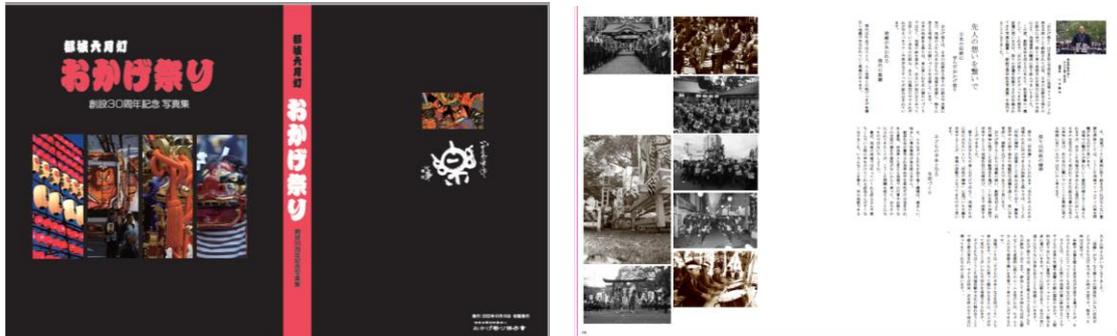
都城圏域の地域文化である「六月灯」の意味、創立30周年を迎える「都城六月灯 おかげ祭り」の思い、歴史を後世に伝承するため、今後、市内小中学校、公民館、図書館、地域団体等に配付し、地域の文化継承を図っていきます。

【期間】 令和4年6月～令和5年1月

【場所】 祭り小舎

【内容】 「おかげ祭り写真集」 1000部作製

- 【配布先】 都城市、三股町、市内小中学校、高校、大学、公民館、図書館、地域団体（通り会、壮年、子ども会等）等
- 【参加者】 おかげ祭り保存会会員（18名）



集合写真

○「地域学習支援」事業

市内小学校で実施している「地域学習」授業に講師として会員を派遣し、都城の伝統文化である「六月灯」及び「おかげ祭り」の想い、地域再生等について授業を行った。

【場所】 都城市立大王小学校

【日時】 ①令和4年 9月 7日（水）10：00～12：00

②令和4年11月17日（木）10：00～12：00

【授業内容】 ①「ふるさと学習」出前講座（座学）

②「ふるさと学習」出前講座（体験）

【参加者】 ①3年生（80名）

②3年生（87名）、5年生（80名）

【場所】 都城市立東小学校

【日時】 ①令和4年11月22日（火）10：00～12：00

②令和4年12月13日（火）10：00～12：00

【授業内容】 ①「ふるさと学習」出前講座（座学）

②「ふるさと学習」出前講座（体験）

【参加者】 ①3年生（80名）

②3年生（89名）





○「寺子屋」事業

地域に昔から伝わる伝統文化である「茶道」を体験することを通じて、日本及び地域の文化への関心を深めることと、郷土愛を高めることができた。

【日時】 令和5年1月28日（土） 10:00～12:00

【場所】 祭り小舎

【参加者】 21名（小中学生）



4. 【事業の成果、効果】

・「おかげ祭り写真集」については、地域の伝統文化である「六月灯」の由来、その六月灯を後世に伝承する「おかげ祭り」の想いをまとめた写真集が作製できたことで、地域文化を学ぶ資料として活用されていくことと思われる。

・「地域学習支援」事業については、数年前から小学校の「地域学習」のメニューの一つとして依頼されており、次の時代を担う子どもたちに地域文化を伝承することができている。そのことにより、地域への愛着度が向上し、地域を誇りに思う意識改革につながっている。

・「寺子屋」事業については、今回、近くにある放課後子どもセンターと初めて協働事業として実施することができた。この事業がきっかけとなって、今後連携した事業展開を進めていくことになり、他の地域団体との連携も視野にいたした地域全体での活性化事業を展開する希望がでてきた。

5. 【まとめ】

～まとめの前に～

昨今、経済社会が優先され効率化や生産性だけが追及され、昔から受け継がれている伝統や文化、風景が失われつつあるように感じている。地域社会も地縁的な結びつきや連帯意識を弱めている。これからの地域は、これまでの長い歩みの中から培われてきた人と人との結びつきや思いを大切にしながら、助け支え合いの絆を再構築することが重要であると思う。

地域は、毎日が生活の場であり、人々との触れ合いの場でもある。そして子どもたちにとって、そこで生きる人々との交流や関わりを通して社会人としての生き方や生活のルール等を学んでいく。従って子どもたちが地域に親しみをもって進んで地域に関わることを大切にしていきたいと考えている。

～まとめ～

今回、地域文化継承の資料となる「写真集」の作製と後世への継承のエンジンとなる小中学生に、「地域学習支援事業」と「寺子屋事業」を実施し人材育成を図ってきたが、子どもたちは想定外に地域文化に興味を示して積極的に質問し、体験していた。

近年、祭りにも子どもの参加が増えてきている。それは、厳格な大人のルールの中で、子どもたちが自分の立ち位置をとらえ、自分で考え行動することに喜びを感じているようである。自分自身、思い返し

てみると、大人の中で行動して褒められると少し大人になった気分で誇らしい気分になったことを今、思い出している。

地域では様々な団体が活動しているが、連携となると難しいところがある。今回、近くにながら交流の無かった放課後児童センターと協働して事業を実施できたことにより、今後の継続した連携事業化につながる事ができた。今後は、地域の公民館、学校そして放課後児童センター等と連携した地域文化の継承と人材育成に努めていきたいと考えている。



直感的に祭りを受け止めての 立ち居振る舞い

子どもは祭りや地域活動に参加することで、子どもの世界の先輩や後輩との縦の関係のなかで人間的折り返いや広い意味でのコミュニケーション能力を身につけていきます。



秋祭りの復活への取り組み



地域づくり講演活動



高校生記者による取材



海外自治体幹部視察団の訪問



地域住民の皆さんの祭り小舎見学会



都城市教育長との懇談会



祭り寄合い研修会



各地の祭りへの視察研修